

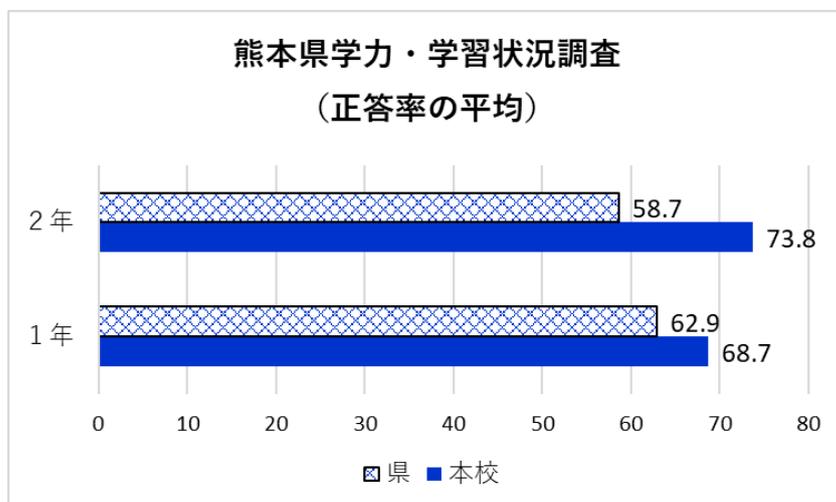
## 『一人の笑顔のために』

## 令和2年度熊本県学力・学習状況調査結果

昨年の12月上旬に行われた、県学力・学習状況調査の結果が出ましたので、その概要をお知らせします。

この調査は、中1・中2を対象に、国語、数学、英語の3教科で行われました。右のグラフは、本校の全受検教科の正答率の平均と県の平均値を比較したグラフです。1年生も2年生も県の正答率を上回っています。

調査により測定できるのは学力の特定の一部ではありますが、今後、各教科でどのような問題に課題があるかなど細かく分析し、さらなる学力向上に向けての授業改善に取り組んでいきます。



## 人間『やればできる』

私の教え子に中学校入学前に中国から来日したH君がいます。彼は来日時には日本語もあまり分からない状況でしたが、ものすごい努力によって日本語の読み書きを獲得しました。そして3年後の高校受験では進路先に熊本高等専門学校を希望し、見事合格することができたのです。彼の努力の姿や次の「一人のベトナム難民少女」の文章から「人間、やればできる」ということを教えられます。

## 一人のベトナム難民少女

トラン・ゴク・ランさんが生れたのは1963年で、六人兄弟の末っ子として生まれました。当時ベトナムは南北に分かれて戦争をしている最中でした。自由もなく戦争の恐怖に明け暮れていた時代でした。ランさんは、中学三年までベトナムにいましたが、財産を没収され生活ができない状況になり、難民として故国を離れ、両親とも別れてある夜出国しました。

12メートルほどの船に38人が乗り込みベトナムをあとにしました。当時の記録によりますと、4ヶ月間に170隻もの難民船がベトナムから出て行きました。命がけだったそうです。沖へ出るまではエンジンで出て、あとは小さな帆にまかせてホンコンをめざして漂流の旅でした。約1ヶ月後に陸地が見え、岸へ船をつけるとハノイでした。ハノイでは難民を受け入れません。追い出されて、また漂流生活です。着のみ着のまま、食糧ははやくになくなり、痩せていて息をしているだけという厳しい漂流生活でした。

ホンコンの難民収容施設はどこも満員で、ランさんたちは刑務所に収容されました。その後、工場へ働きに行くことが許され、ほんのわずかの賃金をもらって刑務所から働きに行きました。

日本に入国したのが1979年10月29日、ベトナムを出てから約1年かかって日本へ来ました。日本では群馬県の桐生へ落ち着きました。日本語もわかりません。まして文字を書くことも出来ませんでしたが、三学期から桐生市立相生中学校へ入学が許可され通学することになりました。制服や教科書はクラスメートが古いのも持ち寄ってくれて勉強を助けてくれました。遅くまで学校に残って勉強し、



街の図書館で 9 時、10 時まで勉強をしました。桐生高校を受験しました。ビリでしたが見事に合格しました。高校でも猛勉強をしました。

高校卒業後の進路にはずいぶん迷ったようですが、ホンコンに漂着したとき、巡回に来られたホンコンの医者への対応が強烈な印象となって残っていました。教養があり専門の学問を身に付けた人で、難民に対しても親切に接し、「これが人間なんだ。」と、強く感動しました。医者になろう。医学部を受験しよう。数年前まで日本語も分からなかった者が、おこがましいと思いつつも受けてみました。

聖マリアンナ医科大学を受験しました。競争率 11 倍というのに見事に合格しました。ベトナム難民第 1 号の医師が生まれました。二ヶ月の漂流の後ホンコンに着き、一年かかって日本に到着し、日本語も分からなかった一少女が十年後に医師の国家試験に合格するという快挙を遂げました。

**人間「やればできる」ということをこの少女は教えてくれました。**

(人権教育講話集 上山勝著 学事出版より)